

風格の旅

神社、寺院、城跡、いにしえに思いをはせる。

田川には歴史ある神社が点在。宇佐神宮（現大分県）の神鏡を鑄造した施設跡もあり、由緒や伝説、由来などを尋ね歩くのもひとつの旅として楽しめます。もちろん、いっしょに願い事もしてみましょ。

採銅所とは文字通り、銅が採出されていた場所。香春岳にはあちこちにあったんです。



B-3 清祀殿 (香春町) 県指定文化財

奈良時代に宇佐八幡宮のご神鏡を鑄造した施設の一部。当時は、貨幣鑄造のほか、仏像仏具などにも銅が用いられていました。清祀殿には「清いまつりごとをする荘厳な家屋」という意味があります。

C-3 鶴岡八幡神社 (香春町)

祭神は応神天皇、神功皇后、玉依姫命(たまよりひめのみこと)で、鎮西八郎為朝が勧請した神社といわれています。社殿完成の際に使用したとされる、翁面、鈴、烏帽子が社宝として伝えられています。平成12年の850年祭の時、流鏝馬や神楽が復活しました。



B-3 大岩弘法院磨崖仏 (香春町)

大岩には梵字と虚空蔵菩薩、金剛薩埵を祀っています。上部には「金剛界」下部には「胎藏界」を示すといわれる洞窟があります。

B-3 現人神社 (香春町)

都怒我阿羅斯命と原田義種を祀った神社で、地元の人からは「お申さま」と呼ばれて親しまれています。香春岳城主の原田義種が、大友勢に攻められて城を逃れ、追っ手に見つかりそうになった時、香春岳の猿が数十匹現れて助けられたといわれています。のちに義種は自害しますが、村人の夢枕に立ち「阿羅斯等の神の冥護により助けられしを忘るべからず。」と告げた伝説が残っています。



B-3 古宮八幡神社 (香春町)

採銅所の氏神・産土神であり、香春三ノ岳に鎮まる神を祀っています。4月30日と5月1日に行われる神幸行事は、福岡県の無形民俗文化財に指定。神輿は白木造りで杉の葉ぶきの屋根が特長で、古宮音頭を歌いながら地区内を巡回します。



5月の神幸祭は大勢の人でにぎわうよ。

C-3 十輪院 (大任町)

和歌山県の高野山金剛峯寺に属し、本尊は鎮火地藏尊。火難守護の神様として有名です。



C-3 成道寺石造七重塔 (田川市)

「平家物語」に登場する悲劇の女性、小督局の墓と伝えられています。高倉天皇の寵愛を受けていた小督局は、平清盛の恨みをかい宮中を追われ、ついには太宰府へ向かいます。その道中、香春を過ぎたころに大雨となり、増水した川を渡ろうとし溺れかけ、村人に助けられ正道寺に逗留することとなりますが、長旅の疲れからか病に伏し、とうとう亡くなってしまいました。哀れんだ当時の郡司によって建立されたと伝えられています。



E-3 淡島神社 (川崎町)

安産、婦人病、子どもの夜尿症などに霊験があるといわれ、多くの参拝客が訪れます。「黒木の淡島さま」と町民から親しまれ、毎年5月3日の大祭では餅投げなどが行われます。



D-4 岩嶽稲荷 (赤村)

三次郎ぎつねの伝説が残る、商売繁盛の稲荷として、多くの参拝者が訪れます。
〈三次郎ぎつね伝説〉
昔、この山に1匹のきつねが住んでいました。とてもお人好しで村人からも親しまれ、「岩竹三次郎」と名前をもらうほどでした。ある日、三次郎ぎつねは修行の旅に出ることになりましたが、その時、友人の彦六に「住まいである森の木を切らないでほしい」と頼んで出かけました。ところが、その後すぐに造り酒屋がこの土地を買い、「木を切らないで!」と懇願する彦六を相手にせず、柿畑にしてみました。数年して帰ってきた三次郎ぎつねは怒り、姿を消してしまいました。酒屋が火事になったり、酒樽が腐るという異変が起きたのは、それから間もなくのこと。酒屋の主人はきつねの祟りだと反省し、稲荷神を勧請して、三次郎ぎつねが帰のを待ったといわれています。

